

胎内市観光振興ビジョン（第1次、平成21年3月策定）の概要

【背景・目的】

- ・平成17年の旧中条町と旧黒川村の合併から3年と日が浅く、観光振興に対する意識の違いや、それぞれの地域の観光資源に対する理解も十分ではなかった。
- ・旧黒川村で整備が進められた「胎内リゾート」各施設の経営状況は厳しく、胎内市全体としての方向性も踏まえた、今後の方針検討が必要であった。



胎内市が更なる魅力づくりを進めていく上で、以下を示すことが必要。

- ・ 胎内市が目指すべき姿
- ・ 将来を見据えた観光振興の方向性や、具体的・戦略的な方策

「胎内市観光振興ビジョン」の策定
（計画期間：平成21年度～平成30年度〔10年間〕）

【基本コンセプト】

どこにでもある田舎からオンリーワンの“ふる里”へ ～胎内のみんなが進める“ふる里・たいない”づくり～

- ・地域が育んできた食や農作業、自然体験といった生活文化、その地で触れ合う人々などの要素を活かした「体験型」の観光素材を磨き上げ、訪れた人がほっとできる、懐かしい思いを感じる「ここにしかない、オンリーワンの“ふる里”」をつくる

【狙うマーケット】

- 日帰り客：新潟県内（新潟市居住者中心）及び近隣県居住者
- 宿泊客：市外居住者（新潟市及び首都圏）

【量的目標】

- 観光入込客数：145万人*（平成28年度）
- 消費額：（具体数値は設定せず）

※宿泊で1,000～1,500円/人程度、飲食・買物で500円/人程度の増加をイメージ

*平成21年度以前の統計調査方式による数値
（現在は、観光庁が定めた「共通基準」が採用されており、全般的に入込客数値は減少している）

【質的目標】

- 「満足度」、「再来訪意向」の向上を目指す（具体数値は設定せず）

【基本方針】

①胎内のみんなで“来たくなる魅力”を創り、伝える

- ・観光資源として活用できる素材は十分あり。しかし、磨き上げやPRが不足。

→地域1人1人が主役となって積極的に地域資源の発掘、PR、魅力向上に取り組む

②胎内のみんなが一緒になって“おもてなし上手”を目指す

- ・観光面での魅力はあるが、旧町村で観光への意識に違いがあり、連携が不足。

→訪れた人に魅力を伝える事の出来る人材の発掘・育成に取り組む

③胎内のみんなも、胎内に来る人も満足する“ふる里”を目指す

- ・市民が「生き甲斐」や「誇り・愛着」を持つことが重要。

→住む人も訪れる人も満足できる「ふる里 たいないづくり」に取り組む

【施策の体系】

- ・以下の3分野で構成。

- ① 市民と観光客双方に魅力的な地域づくり（＝観光まちづくり）のための施策
- ② 観光振興につながる産業づくりのための施策
- ③ ①、②を進めるための人材・仕組みづくりのための施策

- ・これら3つの分野を基本として、基本戦略、具体的施策、および重点的に推進するプロジェクトにより展開。

（※施策体系図は別紙）

★参考：胎内市の観光入込客数の推移

*平成22年度より観光庁基準による数値

